

動員学徒慰霊塔

〔地図番号42〕

建立年月日

1967（昭和42）年7月15日

建立者

広島県動員学徒
犠牲者の会

設計者

村田相互設計
えんつば かつぞう
圓鰐 勝三（陶板と女神像）

形状

平和の女神像と8羽のハトを配した高さ12mの有田焼の陶板仕上げで、末広りの5層の塔の中心柱に慰霊の灯明がついている。塔の左右にある4枚のレリーフは「食糧増産作業」「女子生徒の縫製作業」「工場内での鉄工作業」「広島の灯ろう流し」を表し、その裏に全国戦没学徒出身校351校の校名と動員学徒悼歌“ほのお果てては”が記されている。



建立の目的

第二次世界大戦中、労働力の不足を補うため、勤労奉仕に動員され戦禍にたおれた学徒と、原爆の犠牲者を含めた約1万人の学徒の霊を慰めるため。

碑文

「第二次世界大戦中増産協力等いわゆる勤労奉仕に動員された学徒は、全国にわたり三百数十万人。あたら青春の光輝と、学究の本分を犠牲にしつつ挺身した者のうち、戦禍にたおれたものは一万有余人。その六千余人は原爆死を遂げた。この塔は明眸青雲を望み、将来空高く羽ばたこうとした夢も空しく、祖国に殉じたそれら学徒の霊を慰めようと有志同胞の手によってうち建てた。」

特記事項

1 学徒動員

政府は労働力の不足を補うため、1944（昭和19）年8月に学徒勤労令を発し、中学生以上の生徒は軍需工場等での勤労奉仕が強制されました。

また、11月には、空襲による延焼を防ぐため、民家などの建物を取り壊し防火地帯をつくる建物疎開作業にも、多くの生徒が動員されました。広島市内でも被爆当日、市内で建物疎開作業を行っていた国民学校高等科以上の8,200人以上の生徒のうち、約6,300人が犠牲となりました。

その他に市内の各事業所に出ていた多くの学徒も犠牲者となりました。

2 建立の由来

政府は、原爆や空襲などで亡くなった動員学徒のうち、氏名・死亡日等の判明した者に限り靖国神社への合祀を認めました。この塔は、それを受け、名簿作成運動を始めた遺族による募金によって建てられたものです。県外の出身学校名は、この建設運動の趣旨に賛同し、空襲などで亡くなった学生の名簿を送ってきた学校です。